

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	令和5年9月29日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&Iigvsoyocd=2470700549-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Iigvsoyocd=2470700549-00&ServiceCd=320&Type=search)

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年10月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①毎月1回出前の日を作り、食べたいものをテイクアウトして食べていただき、好評を得ている。また季節の行事を毎月楽しんでいただいている。</p> <p>②リフト浴を導入し、寝たきりの方でも入浴ができる。</p> <p>③人員が少ない中でも職員一人ひとりが協力的で、入居者が日常の中で楽しめることを常に話し合い実行している。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>周りを住宅に囲まれた静かな環境の中に事業所はあり、最初は地域に溶け込むのも苦労されたようだが長年の管理者、職員の地道な努力の結果、現在は地域の数々のイベントに参加したり、防災訓練には地域住民が参加するなど地域の貴重な福祉資源として認知されている。グループホームの5つの理念を、職員は支援の根本にして、グループホームを利用者それぞれの家のような環境になるよう日々支援している。職員も長年勤務している人が多く、職員にとっても働きやすい環境を目指し、利用者のよき生活パートナーとして支援を心掛けている事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員全員で理念を唱和し、ケアに迷った時は理念に基づいたケアを実践するように心掛けている。	グループホーム立ち上げ時の5つの柱からなる理念を、職員は利用者支援のよりどころとして利用者に接するよう心掛けている。職員採用時には、理念の研修を行い、共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事（溝掃除・草刈り・夜間防犯パトロール等）に参加している。また、自治会の防災役員として当ホーム主催での自治会合同防災訓練を年2回（日中・夜間）行っている。	コロナ感染対策を最優先課題としている為、以前のような地域と利用者の交流は現在は行えていない。ただ、職員が地域の清掃活動に参加したり、自治会と合同の事業所防災訓練を年二回実施するなど、長年の地域交流実績から、地域の貴重な福祉資源として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと共に認知症サポーター養成講座を開催し、寸劇を通して受講者がより実感をもって理解できるように取り組んでいる。また市からの依頼で市民に向けた講座も今年度から開催する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、4月までは開催していなかったが、6月より再開し報告を行い、意見を参考にしている。	コロナ感染対策で外部との交流を控えていたため、4月までは会議を開催していなかった。6月開催時に市や家族が参加する中、以前の報告も含めて現況報告を行った。	運営推進会議の参加メンバーが、コロナ禍もあり、やや固定化されており、管理者も対応に苦慮しているが、外部への施設の現況報告やそれに対する意見交換は、貴重な機会であるため、来期は様々な人材の会議参加を希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや相談したいことがあれば都度、市担当者に相談し助言を頂いたり、意見交換をしている。	市から、市民対象の認知症サポーター講習の講師として、管理者が依頼されるなど市とは協力関係を築けている。権利擁護の利用者が入所しており、定期的に市と連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束についての勉強会を行い、知識を得ている。2か月に1回身体拘束委員会を行い、現状での身体拘束の必要性の有無を話し合っている。事故報告等の話し合いをしている。	3か月に1回身体拘束委員会を開催し、事業所の支援の現状を報告して、身体拘束に当たる支援がなかったか委員間で確認しあったり、介護事故報告から取り組み、支援の妥当性を話し合っている。年2回身体拘束廃止に向けた勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に高齢者虐待の研修も行っている。また、着替えや入浴時に身体の観察をし、異常がないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	実際に成年後見制度を利用している入居者もみえる為、制度についての説明を含め、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、重要事項内容について説明を行い、疑問点や不安な点は無いか、一つひとつ確認を行いながら納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも家族や入居者の意見を聞き、できるだけ要望に沿うように、会議で検討し運営に反映している。	面会後に、家族と利用者の現状を話し合い、家族の意向や要望を職員は聞くようにしている。毎月職員が作成しているまごころ新聞は、日常の利用者の様子を写真にとって家族に郵送し、家族からは好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回必ず理事長面談があり、意見交換ができる機会を設けている。また管理者はいつでも職員の意見を聞き、すぐに反映するよう努めている。	全職員年1回、理事長面談がありその際直接運営に関する意見を聞く機会を設けている。また管理者も現場の支援に携わっているため、その都度職員とはコミュニケーションを取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の考えや思いを聞き出し、自己評価を踏まえ人事考課をしている。また管理者とは都度話ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに必要な研修には積極的に参加するようにし、職員の成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は活発に行っていたが、コロナ禍の為行えていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調で情報を集め、家族や本人の話や要望を傾聴し、徐々に信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調や契約前から家族の話をしっかり聞き、様々な情報を把握するように努め、家族の意向や要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前から家族の話をしっかり聞き、他のサービスの方が本人に合っている様子がみられた際は助言をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者に教えて頂いたり相談することで、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様について質問したり相談しながら家族と共に本人様を支えられるように協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会が少なかったが、電話をかける等、極力関係が途切れないように努めている。	毎夜知人と少し話したいから連絡を取りたいと訴えがある利用者に対して、利用者の携帯を使って連絡を支援したり、ユニット間でも仲の良い利用者同士の交流をうながしたり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見のいい人が隣に来るような席を配慮しており、困っている人がいると職員を呼んでくれる人など利用者同士の支え合いもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族が相談に来られる事もあり、関係を断ち切らないように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話等のコミュニケーションの中から把握に努めている。コミュニケーションが難しい方は、何が今一番必要なのかを職員で話し合い考えている。	何人かはコミュニケーションが困難な利用者もいるが、利用者の様子や気づきは介護記録に残し、毎月の全員参加のケア会議にて職員同士意見交換し、支援の方向性や情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を伺い、情報収集している。また、今までの暮らしのアンケートを実施し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を把握し、生活記録や個人記録に記録し、担当者にアセスメントシートを作成してもらい、職員間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に状態に変化が無ければ、会議にて3ヶ月に一度モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意向や要望は、日常の生活の中から聞き出し、家族の意向は面会時に聞き、それを基に3か月に1回のモニタリングを参考に、担当者会議を経てケアマネが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要な事を見極めて、時には家族の協力を得ながら対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容師に散髪に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に主治医だが、家族の希望される医療機関や受診体制を優先し、安心して適切な医療が受けられるように対応している。	入居契約時に、本人、家族の要望で基本的に協力医がかかりつけ医となっている。精神科などは、家族が付き添い受診しているが、要望があれば職員が通院介助を行っている。協力医は、24時間対応で、看護師も月の半分、勤務し利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば看護師に相談し、処置や受診等の指示を受けている。24時間のオンコール体制で、緊急時は夜間でも相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、サマリー等で情報を共有することで安心して治療にあたれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで、何かあればその都度話し合いを行なっている。終末期になれば、それに対応したプランに変更している。	入居契約時に、事業所の看取り体制が整っていることを伝え、本人、家族の同意を得ている。主治医の判断で、看取りと診断され、家族、本人も事業所で生活されることを希望された場合は、過去にも看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習やAEDの使用研修などを行い、対応できるようにしていたが、今年もコロナ禍で感染者数が増えている為行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、自治会と合同で日中・夜間を想定し行なっている。利用者と一緒に、想定した避難訓練を行い、日頃の備えに対する意識を高めている。	3月、11月に日中、夜間の避難訓練を行っている。日中の避難訓練の際は、地域住民30名ほど参加の中、付近の河川の堤防が決壊した想定で訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉使いや接し方をし、プライバシーを意識した対応を心掛けている。	管理者の発言にあった'親しき仲にも礼儀あり'という言葉に表されるように、利用者それぞれに合わせた支援をしている。入浴時に同性介助を希望される利用者がいたらその意向に応える支援を、職員は心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方でも、二者選択で自己決定をして頂いたり、会話の中から希望を聞き出し実現できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等は順番に行っている為、職員の都合を優先しているが、それ以外の時間は好きなこと（塗り絵やパズルなど）をしてもらうなど、その方にあった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な整容以外でも、衣服が汚れればすぐ交換し、さっぱりと心地よく過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で、食事の盛り付けや後片付けを手伝ってもらっている。	湯煎した調理済みの食材を、皿に盛り付ける手伝いをしたり、洗った食器を拭いたりする利用者もいる。利用者に今食べたいものを聞き取り、その中から提供できるものを決めて、毎月1回出前やテイクアウトをして利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、生活記録に残すことで健康管理をしている。あまりにも摂取量が少ない時等は家族と相談しながら個別で食べられるものを食べてもらう等、その方に合った支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、自立または介助にて口腔ケアを行なっている。夕食後に義歯の消毒も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンを把握して、トイレ誘導やパッド交換を行なっている。	リハビリパンツ利用の利用者が多いため、日中は、排泄記録表を参考になるべくトイレで排泄支援を行っている。夜間は、立ち上がりセンサーを使用し、そのタイミングでトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂ったり、時には腹部マッサージを行う事で、個々に応じた支援を行なっている。また服薬にてコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は順番に行っている為、職員の都合を優先しているが、週2回以上は入浴してもらえるように考え、個々人のこだわりを把握し、気持ちよく入浴してもらえるように支援している。	週2回、午前中に順番を決めて入浴支援を行っている。毎日入浴剤を使って、一ひとり時間をかけて入浴してもらい、現在は入浴拒否の利用者もおらず、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の希望や様子を見ながら、声かけや居室への誘導を行なっている。気持ちよく休めるように空調にも気を付けている。日中も夜間に影響が出ない程度で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員間でダブルチェックを行い、入居者が飲み込むまで確認している。変更に関しては看護職員と連携し、状態の変化に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事への参加や、コロナウイルスの流行前までは、気分転換に外食や買い物にも出かけていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの流行により外出できていなかったが、ドライブや、外出など徐々にではあるが再開し、楽しまっている。	昼食後、フロアにいる利用者を連れて玄関前のベンチに座って、歌を歌ったり外気浴を楽しんだり日常的に支援している。コロナ禍で、思ったように外出はできていないが、来期はコロナ感染対策をしてドライブを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所で保管しており、必要時に職員と一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて職員が代行して電話を掛けることがあり、かかってくることもあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように清潔に配慮し、季節の壁面や写真等で季節を感じて居心地よく過ごせるようにしている。	調査日には、昼間利用者が多くの時間を過ごすフロアからは、口腔体操も兼ねた利用者と職員の楽しそうな大きな歌声が聞こえてきていた。季節を感じられるようフロアの壁には、季節ごとのイベントの写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーの活用や席の移動により、楽しく過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやテレビなどを持参し、自宅のように居心地よく過ごせるように工夫している。また写真や作品などを飾る事で、さみしくならないようにしている。	自宅で過ごされている際に使われていたものをそのまま居室に持ち込んでもらっている。事業所のイベントに参加された際の笑顔の写真や、家族との写真を壁や棚にたくさん飾られている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂に名札をかけて理解してもらおう事で、自ら行ける様に支援している。また安全に生活が送れるように、家具の配置や車椅子の配置などに配慮し、安全な環境づくりを心掛けている。		